

自己評価報告書

平成 23年 5月 30日現在

機関番号：43807

研究種目：基盤研究(c)

研究期間：2008年～2011年

課題番号：20500610

研究課題名(和文) 保健問題を抱える通信制高等学校生徒への保健支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of Support Program for Correspondence High School Students who Have Health Issues

研究代表者

増田 明美(MASUDA AKEMI)

静岡県立大学短期大学部・看護学科・講師

研究者番号：40390017

研究分野：母性看護学・学校保健

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・応用健康科学

キーワード：通信制高等学校・通信制保健室・通信制養護教諭・通信制保健室ネットワーク・通信制保健室フォーラム

1. 研究計画の概要

研究目的

本研究は、全国にある通信制高等学校の保健問題を抱える生徒への保健支援プログラムを開発することを目的とする。

研究計画

(1)通信制高等学校保健室の実態調査

(2)通信制高等学校生徒の健康実態調査

(3)アメリカにおける通信制高校の健康管理方法の実態

(4)通信制高等学校生徒への保健支援

①よろず相談室

②松原の生活分析的カウンセリング

③コラージュ療法

(5)通信制高等学校保健室ネットワーク作り

①通信制保健室フォーラム開催(フォーラムの内容を全国へ発信)

(6)保健問題を抱える通信制高等学校生徒への保健支援プログラムの手引書を作成

2. 研究の進捗状況

(1)通信制高等学校保健室の実態調査

通信制専任の養護教諭 12 人、通信制非常勤の養護教諭 10 人を対象に半構造化面接法を実施した。

(2)通信制高等学校生徒の健康実態調査

2008 年に同意が得られていた全日制高等学校と通信制高等学校の健康調査をまとめ、通信制生徒の健康面での特徴を明確にした。

(3)アメリカにおける通信制高校の健康管理方法の実態

インターネットや電話で問い合わせを行い、メールの返信とパンフレットが郵送され実態を把握した。

(4)通信制高等学校生徒への保健支援

①よろず相談室

通信制高校で相談室コーナーを設け個人相談に応じている。そこでは、生徒に応じて生活分析的カウンセリングやコラージュ療法を行っている。

②松原の生活分析的カウンセリング

生活分析的カウンセリングを通信制生徒 6 人に同意をとって実施したが、そのうちの 3 人が 1 年間継続できた。

③コラージュ療法

実践はしているが、研究の同意は得られなかった。

(5)通信制高等学校保健室ネットワーク作り

①通信制保健室フォーラムを 2 回開催した(フォーラムの内容を全国へ発信)。

(6)保健問題を抱える通信制高等学校生徒への保健支援プログラムの手引書を作成する予定である。

3. 現在までの達成度

(1)通信制高等学校保健室の実態調査

②概ね順調に進展している。

その理由：通信制専任の養護教諭 12 人の調査結果は原著論文として発表し、健康支援プログラムに盛り込む指針が明確になった。非常勤の養護教諭 10 人の面接調査については、今後、分析し論文としてまとめる。

(2)通信制高等学校生徒の健康実態調査

②概ね順調に進展している。

その理由：全日制と比較することによって通信制の健康習慣の特徴が明確になった。論文として発表はしていないが、まとめている。

(3)アメリカにおける通信制高校の健康管理方法の実態

②概ね順調に進展している。

その理由：アメリカの通信制高校の健康管理は、自己管理が多かった。論文として発表はしていないが、まとめている。

(4)通信制高等学校生徒への保健支援

③やや遅れている

その理由：支援の実践については、可能な限り行ったが、実践結果の分析は、今後行う予定である。

(5)通信制高等学校保健室ネットワーク作り

②概ね順調に進展している。

その理由：通信制保健室フォーラムを2回開催し、出席者からは満足だったという手答えを得ている。フォーラムの内容を全国へ発信し、通信制養護教諭のネットワーク作りの働きかけにつながっていると判断している。その結果を、論文にまとめている段階である。

(6)保健問題を抱える通信制高等学校生徒への保健支援プログラムの手引書を作成

③やや遅れている

その理由：(1)~(4)と第3回目の通信制保健室フォーラム開催の内容を基礎資料とし2011年に仕上げていく予定である。時間が限られているので達成できるよう計画を練り直す必要がある。

4. 今後の研究の推進方策

第3回通信制保健室フォーラムを7月23日に開催するために現在準備をしている。配布リーフレットとフォーラムのプログラム及び校長宛にフォーラムの案内文書を作成している。このまま準備を進めていく。

通信制保健室フォーラムに関しては、「通信制養護教諭間ネットワーク作りに向けてのフォーラムの意義」というタイトルで論文として7月までには投稿する予定である。

非常勤の養護教諭10人の面接調査については、9月までに論文としてまとめる予定である。

よろず相談室、生活分析的カウンセリングの実践評価については、12月までにまとめる予定である。

第3回通信制保健室フォーラムの内容と計画書の(1)~(4)を基礎資料にし、下記の保健支援プログラムに盛り込む指針を基に手引書を作成する。

(1)生徒の健康実態の把握とその活用対策
(2)健康診断の受診率向上のための対策
(3)危機管理体制の整備
(4)通信制保健室体制の改善
(5)社会資源を取り入れた他職種との連携
(6)通信制生徒の健康意識を高める自己管理への健康教育

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- 1) 増田明美、塚本康子、三田英二、全国の通信制高等学校における保健室の実態と課題、学校保健研究、査読有、52(1)、52-62、2010.
- 2) 増田明美、山田好秋、山村健介、通信制高等学校保健室における健康支援に関する研究—常勤の養護教諭が配置されている通信制高等学校保健室の課題と健康支援の実態より—新潟歯学会、査読有、40(1)、41-51、2010.

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕